

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 19 年 3 月 8 日 (2007.3.8)

【公開番号】特開 2001-222376 (P2001-222376A)
 【公開日】平成 13 年 8 月 17 日 (2001.8.17)
 【出願番号】特願 2000-29362 (P2000-29362)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 3/041 (2006.01)

G 0 6 F 3/048 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 3/033 3 6 0 B

G 0 6 F 3/00 6 2 0 H

G 0 6 F 3/00 6 2 0 D

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 1 月 23 日 (2007.1.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 表示手段と、その上に配置されたタブレットを入力手段としたタブレット一体型の座標入力装置において、

前記タブレットに対する押圧入力並びに、前記タブレット上の入力位置を検出する押圧検出手段と、

前記押圧検出手段による検出にて、前記タブレット上の第 1 の領域並びに第 2 の領域に対する押圧入力を同時に検知することにより、前記第 1 の領域に対応して予め設定された処理動作を、前記第 2 の領域に対して実行する制御手段とを備えたことを特徴とする座標入力装置。

【請求項 2】 前記押圧検出手段にて検出した第 1 の領域に対する入力位置と、第 2 の領域に対する入力位置との距離を判定する距離判定手段を備え、

前記制御手段は、前記距離判定手段にて判定された距離が予め記憶されている一定の距離より近ければその押圧入力を無視することを特徴とする請求項 1 に記載の座標入力装置。

【請求項 3】 前記制御手段は、押圧入力を無視したときには、報知手段から警報を発してオペレータに警告することを特徴とする請求項 2 に記載の座標入力装置。

【請求項 4】 前記タブレット上の第 1 の領域および第 2 の領域が任意に定義可能に設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の座標入力装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 7】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、本発明の座標入力装置は、表示手段と、その上に配置されたタブレットを入力手段としたタブレット一体型の座標入力装置において、前記タブレットに対する押圧入力並びに、前記タブレット上の入力位置を検出する押圧検出手段と、前記

押圧検出手段による検出にて、前記タブレット上の第１の領域並びに第２の領域に対する押圧入力を同時に検知することにより、前記第１の領域に対応して予め設定された処理動作を、前記第２の領域に対して実行する制御手段とを備えたことを特徴とする。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２９】

通常のペン操作時において、オペレータの誤操作の１つに手つきによる２点入力がある。従って、多重入力時と、通常操作時の手つきによる誤操作とを区別できなければ、誤動作の原因となる。そこで、本発明の座標入力装置は、上記構成において、前記押圧検出手段にて検出した第１の領域に対する入力位置と、第２の領域に対する入力位置との距離を判定する距離判定手段をさらに備え、前記制御手段は、前記距離判定手段にて判定された距離が予め記憶されている一定の距離より近ければその押圧入力を無視することを特徴とする。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００６４

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００６４】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明の座標入力装置によれば、タブレットに対する押圧入力並びにタブレット上の入力位置を検出する押圧検出手段と、押圧検出手段による検出にて、タブレット上の第１の領域並びに第２の領域に対する押圧入力を同時に検知することにより、第１の領域に対応して予め設定された処理動作を第２の領域に対して実行する制御手段とを備えた構成としたので、機構的な追加物を設けることなく、かつ画面上に専用の例えばダブルクリック機能領域や右ボタン機能領域など特別なアイコンを表示するなどしてアプリケーションソフトに制約を設けるといったこともなく、タブレット上を指またはペンで１回操作するだけで、マウスのダブルクリックまたは右ボタンクリックに相当する機能を実現することができる。そのため、初心者には操作が困難であった指またはペンによるマウスのダブルクリックに対応する操作も容易に実現することができる。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００６５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００６５】

また、本発明の座標入力装置によれば、前記押圧検出手段にて検出した第１の領域に対する入力位置と、第２の領域に対する入力位置との距離を判定する距離判定手段をさらに備え、制御手段は、距離判定手段にて判定された距離が予め記憶されている一定の距離より近ければその押圧入力を無視する構成としている。これにより、多重入力時と、通常操作時の手つきによる誤操作とを区別できるので、手つきによる誤動作を防止することができる。